



2022年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年8月12日

上場会社名 株式会社エスユーエス 上場取引所 東
 コード番号 6554 URL https://www.sus-g.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 齋藤 公男
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼最高財務責任者 (氏名) 浅田 剛史 (TEL) 075-229-7400
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年9月期第3四半期の連結業績(2021年10月1日~2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期第3四半期	7,723	10.6	501	321.9	545	12.4	137	△53.0
2021年9月期第3四半期	6,981	2.7	118	△61.1	484	58.7	293	66.6

(注) 包括利益 2022年9月期第3四半期 96百万円(△64.0%) 2021年9月期第3四半期 269百万円(60.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年9月期第3四半期	15.61	14.95
2021年9月期第3四半期	33.31	31.83

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年9月期第3四半期	4,811	2,876	59.3
2021年9月期	4,237	2,840	65.6

(参考) 自己資本 2022年9月期第3四半期 2,854百万円 2021年9月期 2,777百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年9月期	—	0.00	—	7.00	7.00
2022年9月期	—	0.00	—		
2022年9月期(予想)				10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年9月期の連結業績予想(2021年10月1日~2022年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,775	14.4	601	208.4	668	3.0	423	△5.4	48.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年9月期3Q	8,840,400株	2021年9月期	8,817,200株
② 期末自己株式数	2022年9月期3Q	184株	2021年9月期	184株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年9月期3Q	8,833,149株	2021年9月期3Q	8,810,260株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が続いているものの、活動制限の緩和等の経済回復へ向けた動きも見られました。一方、原油価格や原材料価格の高騰によるインフレ懸念やウクライナ情勢などの地政学リスクの高まり等もあり、依然として先行きが不透明な状況が続いております。

このような中、当社のソリューション事業においては、派遣業務、請負業務ともに増加しました。さらに、コンサルティング事業、AR/VR事業においても受注が増加し増収となりました。一方で、採用広告費及び人件費を中心に販売費及び一般管理費は増加しました。営業外収益では、雇用調整助成金等の助成金収入が減少しました。特別損失では、第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社クロスリアリティが保有する固定資産について、減損損失203,444千円を計上いたしました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高7,723,276千円（対前年同期比10.6%増）、営業利益501,847千円（対前年同期比321.9%増）、経常利益545,004千円（対前年同期比12.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は137,898千円（対前年同期比53.0%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第3四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

① ソリューション事業

派遣業務は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていた前年同期と比べて、稼働人数の増加による稼働率の改善及び派遣単価の上昇等により、売上高は前年同期比で増加しました。採用については、当第3四半期連結累計期間において新卒技術社員を139名採用しており、引き続き採用強化に取り組んでまいります。また、継続的にIT分野の強化に取り組み、IT分野の売上及び売上構成比がともに増加しました。

請負業務は、プロジェクト単位及びチーム体制での受注を踏まえ、積極的に受注拡大に注力いたしました。その結果、製造請負においては、既存取引の中でも半導体関連で受注が拡大しました。IT請負においては、主力である西日本だけでなく東日本にも注力し、新規取引及び既存取引の受注が堅調に推移しました。

これらの結果、ソリューション事業の売上高は7,055,884千円（対前年同期比9.9%増）、セグメント利益は534,957千円（対前年同期比113.8%増）となりました。

② コンサルティング事業

ITコンサルティングサービス市場は、SAPをはじめとした既存の大規模基幹システムにおいてIT基盤の統合・再構築が企業の重要課題とされ、当社が携わるクラウド系基幹システムであるSAP S/4 HANA及びSAP以外のERPの導入案件につきましても拡大傾向となりました。こうした案件状況に対して、自社ITコンサルタントの育成及び増員に加えて協力会社の外注要員を活用し、チームでの対応体制を整えるとともに、大型案件へリソースを集中いたしました。その結果、ITコンサルティングは前年同期比で増収増益となりました。また、HRコンサルティングの売上高は増収となりました。

これらの結果、コンサルティング事業の売上高は519,216千円（対前年同期比11.6%増）、セグメント利益は68,132千円（対前年同期比50.0%増）となりました。

③ AR/VR事業

AR/VR事業は、AR（拡張現実）、VR（仮想現実）、MR（複合現実）、AI（人工知能）と言われる第4次産業革命に対応する取り組みとして、企業や教育機関が求めるAR/VRコンテンツやプラットフォームの販売及び開発、並びに最先端AI研究の第一人者でありデータサイエンティストである研究所長のもと進めているAI技術の研究と、ソリューション事業で培ったエンジニアの技術により、AI関連の自社商品・技術・サービスの開発及びAI受託等を目的に事業を行っております。また、アカデミーの運営及びAIデザイナー講座等を通して、AR/VRエンジニア及びAIエンジニアの育成を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、教育機関向けのVRコンテンツ、360° VRツアー及び仮想空間でのイベントコンテンツ、MR・VRを用いたモデルルーム内覧の受注を獲得し、売上高は前年同期比で増加し、赤字幅が縮小しまし

た。DX化の促進及びメタバースの活用等への関心が高まり、ビジネスシーンでの活用が拡大していることを背景に、XR（AR・VR・MR）・メタバース特有の「体験」を通して、より効果的なオンラインコミュニケーションへの制作依頼や導入の問い合わせが増え、受注活動も順調に進捗しております。また、AI関連の取組みでは、画像認識に関する受託開発の受注を獲得しました。

これらの結果、AR/VR事業の売上高は110,249千円（対前年同期比116.0%増）、セグメント損失は84,742千円（前年同期は188,572千円の損失）となりました。

④ その他

障害者の雇用の促進等に関する法律に基づく特例子会社である株式会社ストーンフリーの売上高は、就労移行支援事業の利用者が減少したこと等により、前年同期比で減少しました。また、再生医療導入支援事業を行うプライムロード株式会社は、受注を獲得しました。

これらの結果、売上高は37,925千円（対前年同期比10.4%減）、セグメント損失は16,500千円（前年同期は11,937千円の利益）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は4,811,160千円となり、前連結会計年度末より573,686千円の増加となりました。流動資産合計は4,305,255千円となり、前連結会計年度末より705,376千円の増加となりました。これは主に現金及び預金が616,739千円増加、売掛金が107,690千円増加したことによるものであります。固定資産合計は505,905千円となり、前連結会計年度末より131,690千円の減少となりました。これは主に減損損失等により、有形固定資産が76,354千円減少、無形固定資産が94,678千円減少したことによるものであります。

② 負債の状況

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は1,934,818千円となり、前連結会計年度末より537,490千円の増加となりました。流動負債合計は1,901,105千円となり、前連結会計年度末より550,096千円の増加となりました。これは主に賞与引当金が283,476千円減少した一方、未払費用が636,370千円増加、未払法人税等が111,746千円増加したことによるものであります。固定負債合計は33,713千円となり、前連結会計年度末より12,606千円の減少となりました。これは主にリース債務を含むその他固定負債が12,646千円減少したことによるものであります。

③ 純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は2,876,342千円となり、前連結会計年度末より36,196千円の増加となりました。これは主に非支配株主持分が41,026千円減少した一方、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上137,898千円及び剰余金の配当61,719千円により、利益剰余金が76,179千円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年9月期の連結業績予想につきましては、2021年11月12日に公表いたしました予想値から変更はありません。

株式会社クロスリアリティ（連結子会社）を含むAR/VR事業全体の事業計画の見直しを進めている一方、ソリューション事業等が好調に推移していること等により、現時点で通期の連結業績予想を据え置いております。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響は、2022年9月期は上期中に軽微な影響は残るものの通期にわたってコロナ前の水準に回復する、という前提のもと、2022年9月期の連結業績予想を作成しておりますが、今後、各種情報収集に努め、業績予想に変更が生じた場合には速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,306,309	2,923,049
売掛金	1,187,613	1,295,304
仕掛品	6,089	14,270
その他	99,903	72,672
貸倒引当金	△37	△41
流動資産合計	3,599,878	4,305,255
固定資産		
有形固定資産	188,137	111,783
無形固定資産	136,148	41,469
投資その他の資産		
その他	314,264	353,607
貸倒引当金	△955	△955
投資その他の資産合計	313,309	352,652
固定資産合計	637,595	505,905
資産合計	4,237,474	4,811,160
負債の部		
流動負債		
未払金	616,590	650,867
未払法人税等	142,683	254,430
未払費用	87,623	723,994
賞与引当金	283,476	-
その他	220,634	271,813
流動負債合計	1,351,008	1,901,105
固定負債		
資産除去債務	23,433	23,472
その他	22,887	10,241
固定負債合計	46,320	33,713
負債合計	1,397,328	1,934,818
純資産の部		
株主資本		
資本金	431,171	431,693
資本剰余金	526,816	527,338
利益剰余金	1,819,870	1,896,050
自己株式	△184	△184
株主資本合計	2,777,674	2,854,897
非支配株主持分	62,471	21,444
純資産合計	2,840,145	2,876,342
負債純資産合計	4,237,474	4,811,160

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年10月1日 至2021年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年10月1日 至2022年6月30日)
売上高	6,981,625	7,723,276
売上原価	5,506,256	5,715,756
売上総利益	1,475,369	2,007,519
販売費及び一般管理費	1,356,423	1,505,671
営業利益	118,946	501,847
営業外収益		
受取利息	16	14
受取配当金	1	0
助成金収入	374,458	36,556
補助金収入	10,992	10,798
その他	62	116
営業外収益合計	385,531	47,485
営業外費用		
支払利息	5,311	3,602
支払手数料	14,116	704
その他	57	22
営業外費用合計	19,485	4,329
経常利益	484,991	545,004
特別損失		
固定資産除却損	209	217
減損損失	-	203,444
特別損失合計	209	203,662
税金等調整前四半期純利益	484,781	341,342
法人税、住民税及び事業税	298,926	346,080
法人税等調整額	△83,290	△101,610
法人税等合計	215,636	244,470
四半期純利益	269,145	96,871
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△24,320	△41,026
親会社株主に帰属する四半期純利益	293,465	137,898

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	269,145	96,871
四半期包括利益	269,145	96,871
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	293,465	137,898
非支配株主に係る四半期包括利益	△24,320	△41,026

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

当該会計方針の変更により四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。

当該会計方針の変更により四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ソリュー ション 事業	コンサル ティング 事業	AR/VR事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,422,805	465,435	51,050	6,939,292	42,332	6,981,625
計	6,422,805	465,435	51,050	6,939,292	42,332	6,981,625
セグメント利益又は損失(△)	250,156	45,424	△188,572	107,008	11,937	118,946

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、就労移行支援事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ソリュー ション 事業	コンサル ティング 事業	AR/VR事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,055,884	519,216	110,249	7,685,350	37,925	7,723,276
計	7,055,884	519,216	110,249	7,685,350	37,925	7,723,276
セグメント利益又は損失(△)	534,957	68,132	△84,742	518,348	△16,500	501,847

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、就労移行支援事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、当社内の組織再編にあわせ、「技術者派遣事業」を「ソリューション事業」に名称変更しております。また、従来「その他」に含まれていた、タレントマネジメントシステム等を活用したHRコンサルティングサービス及びAI関連事業は、それぞれ「コンサルティング事業」、「AR/VR事業」に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「AR/VR事業」セグメントで、当第3四半期連結累計期間において203,444千円の固定資産の減損損失を計上しております。